

南伊豆町版生涯活躍のまち

(仮称) ミナミイズ温泉大学プロジェクト

－中間まとめ－

平成28年11月

南伊豆町生涯活躍のまち推進協議会

はじめに

昨年度策定された、基本計画では、健康創造型生涯活躍のまちをコンセプトとして、健康づくりを柱に、共立湊病院跡地を活用して、サ高住100戸、交流拠点等を整備することを盛り込んだ計画としていた。この基本計画について、今年4月の協議会設立から、これまで6回にわたり協議会を開催し、計画を精査し議論をしていく中で、「単なる高齢者の移住事業では地域のメリットに乏しい」「閉鎖的になりがちな高齢者だけのコミュニティではなく、若者の取り込みや仕事の確保も含めて多世代による地域全体のまちづくりとすべき」などの意見が出された。

これを受けて、協議会の考え方として、「教えあい学び合う（生涯学習）」をキーワードに若者から高齢者までを取り込みながら、健康寿命を延ばすとともに、地域住民にも移住者にも魅力のあるまちづくりを目指すこと（地理的空間的展開）とし、「既存施設の有効活用」「段階的な施設整備」により、多世代向けの住まいや働く場所の整備、また高齢化の進んだ際の地域包括ケアシステムを進めること（時間的継続的展開）と組み合わせ、拠点エリアから開始するプロジェクトの立体的展開による価値向上を図るものとする。すなわち「拠点整備を契機としてまち全体への展開」という視点から本構想を再構築することで、「南伊豆町版生涯活躍のまち」の「中間まとめ」を取りまとめたので、ここに報告する。

1. (仮称) ミナミイズ温泉大学とは

【建学の精神について】

○本大学は、南伊豆町に集う全ての人々がこれまで培ってきた豊富な知識と経験を活かし、互いに「教えあい学びあう」ことによって、町民自らが全員大学の教員であり学生であるような地域づくりが可能となるような、健康で幸福を感じつつ生涯活躍できる南伊豆町をつくることをもって、建学の精神とする。

○大学の名称に用いる「温泉」は、多世代が共通して好み、健幸や癒しを連想させるもの。また、交流を深めるきっかけとなるものであり、南伊豆の文化、象徴でもあることから、それを後世に引き継ぐ思いを含めて「(仮称) ミナミイズ温泉大学」とする。

(※この「大学」と言う名称は、学校教育法上の制度としての大学にとられるものではなく、比喩として使用している。)

【南伊豆町版生涯活躍のまちについて】

○単に高齢者のための施設を整備するものではなく、地域住民、移住者、アクティブシニア、若者など多くの人の参加と協力を得ながら、地域全体のまちづくりを進めることが欠かせない。

○町全体をキャンパスに見立てた「(仮称) ミナミイズ温泉大学」を構想し、地域の創生を担う人づくり、みんなが生涯活躍できる場所づくりを行うため、町に集う人々の知識と経験を活かした「教えあい、学び合う」をキーワードとしたまちづくりを進める。

【(仮称) ミナミイズ温泉大学プロジェクトの概要】

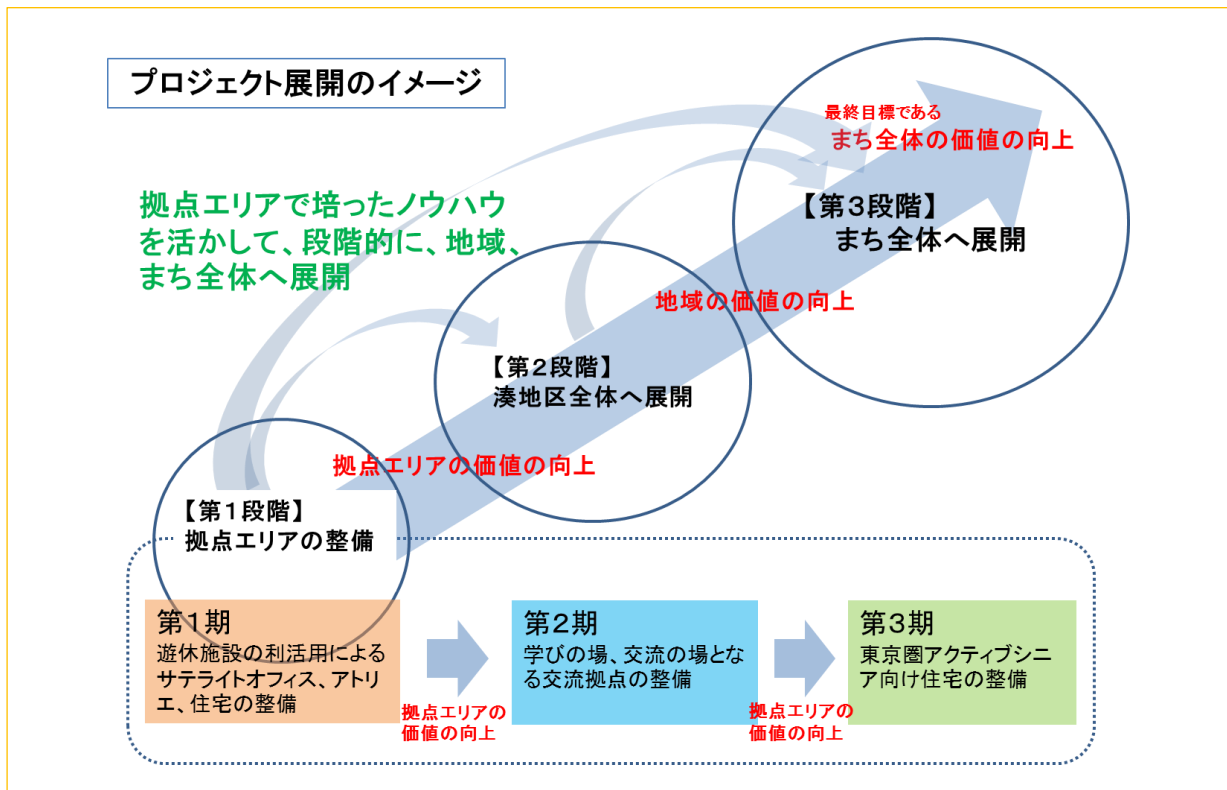
○(人づくり) 町全体をキャンパスに見立て、森里川海学、ジオパーク学、温泉学、健康学、幸福学、人生学、福祉学、食学、歴史文化学、地域づくり学、保全学、持続可能学、地元学(南伊豆学)など、南伊豆のヒト・モノ・コトを活かした人それぞれの学びのプログラムを提供する。

○(場所づくり) 将来的にはまち全体が大学として機能するが、キャンパス本部として湊区の共立湊病院跡地及び杉並区健康学園跡地を拠点エリアとし、この場所を起点としてみんなが集い、学べる環境を段階的に整備する。



2. プロジェクトの展開にあたって

拠点から地域へ、地域からまち全体へ、拠点エリアの価値の向上を図りながら、拠点エリアで培ったノウハウを活かし、段階的に、地域、まち全体へ展開していく。また、拠点エリアの整備についても、3期に区分し、段階的に整備を進める。



【実現に向けて欠かせない取り組み】

○健康創造型のまちづくりの推進

- ・早稲田大学との連携による「世界一健康寿命の長い町」を目指した取り組みを推進し、地域住民をはじめ、移住者等の健康寿命の延伸を図り、みんなが生涯活躍できるまちづくりを進める。
- ・H29に開設する健康福祉センターを中心として、介護サービス事業所、サ高住、老健、特養との連携を図り、誰もが、生涯にわたり、どの地域においても必要に応じて医療・介護・福祉サービスを継続的に受けることが出来る体制（ContinuousCareCommunity）を構築し、仮に個人が要介護状態や認知症になってもそのことで困らない、すなわち健康と言える社会環境を目指す。

○杉並区との連携による地方創生モデルの構築

- ・南伊豆町と杉並区の自治体間連携による、日本で初めての特別養護老人ホームの共同整備によって培った交流・連携をまちづくりの分野でもより一層進める。特別養護老人ホームによる介護サービスの提供と組み合わせ、包括的なケアの基盤の上に二地域の継続的な関係が多年にわたり可能となるような、一生涯・多世代にわたる継続的交流居住の試みとしてモデルとなるような展開を図る。
- ・杉並区内の6大学、杉並版地域おこし協力隊等とのコラボレーションにより、都市部の若者の視点やアイデアを取り入れたまちづくり、例えば働く場の確保や多世代の移住を促進するためのサテライトオフィスやアトリエの整備などを通して、地域の課題解決に取り組む。
- ・杉並区小学生移動教室や子ども漁村交事業の充実を図り、杉並区の子どもたちに南伊豆でしかできない学びや体験を提供するとともに、広く一般区民を対象として、南伊豆の地域資源を生かした健康づくりや生きがい活動を支援する。

○大学に集う人々の参加の拡大

- ・プロジェクトの拠点エリアからまち全体への展開に対応して、主体的な参加者、「学びでつながる人々」の参加の拡大を図ることが欠かせない。そのためにも町内外のアイデアや意見を広く求めていく。

○プロジェクト推進体制～まちづくり会社の設立～

- ・「地域主体の事業展開」「民間のスピード感とアイデア」「利益の地域内循環」の観点から、町と地域のつなぎ役として地域主体のまちづくり会社を設立し、官民の適切な役割分担のもと、連携して事業を推進する。なお、まちづくり会社については、法人化へ向けた準備期間を1年程度設け、庁内に（仮称）ミナミイズ温泉大学準備室を設置して、人材確保や運営ノウハウ等を研究しながら、「大学」の実体化に向けて、事業を実施していくことが望ましい。

3. 事業計画の概要

3期に区分し、拠点エリアの価値向上を図りながら段階的に整備を進める。第1期は本プロジェクトの核となる生涯学習事業をなるべく早い時期から実施するとともに、既存の地域資源を有効活用するという観点から、リノベーションにより拠点エリア内の遊休施設を再生し、東京圏の若者（次世代創生の意識をもつファミリー世帯や中高年を含む）を中心とした多世代向けの施設を整備する。第2期は地域内外の人が学び、交流する場として、「大学」に見立てた交流拠点を整備する。そして第3期には東京圏のアクティブシニア向けのサービス付き高齢者向け住宅を整備する。

区分		内容
第1期	リノベーション 地域再生事業	○最先端のICTを導入した「サテライトオフィス」（10～15戸） ○都市部のクリエイターや芸術家が集う「アトリエ」（5～10戸） ○若者を中心とした多世代向け「学生寮」（18～25戸）
	生涯学習事業	○南伊豆町に集う全ての人々がこれまで培ってきた知識と経験を活かし、互いに教えあい学びあう場
第2期	交流拠点施設 整備事業	○「講堂」「教室」「図書館」 ○「日帰り温泉施設」 ○「学食」「売店」「レクリエーション広場」「テナント」「多目的スペース」
第3期	アクティブシニア 向け住宅整備事業	○主に東京圏のアクティブシニア向け「学生寮（サ高住）」（50戸程度）

【想定スケジュール】

【準備期間】 平成28年度…（仮称）ミナミイズ温泉大学準備室の設置

【第1期】 平成29年度…生涯学習事業の開始及びリノベーション地域再生事業の段階的实施

【第2期】 平成30年度…（仮称）ミナミイズ温泉大学の法人化、交流拠点施設の設計
平成31年度…交流拠点施設の建設（※供用開始はH32から）

【第3期】 平成32年度…アクティブシニア向け住宅（サ高住）の設計

平成33年度…アクティブシニア向け住宅（サ高住）の建設（※供用開始はH34から）

【入居者像】

サテライトオフィス、アトリエ、学生寮のターゲットは、主に東京圏在住で、南伊豆で暮らしたい、南伊豆で働きたい、南伊豆で学びたい、南伊豆で特技を活かしたいなど、南伊豆のまちづくりに一体となって取り組む意欲のある人

【計画期間】

計画期間は、平成29年度から平成33年度の5年間とし、ローリング方式で2年ごとに必要な見直しを実施する。

【計画目標】

指標	目標	達成年度
(仮称) ミナミイズ温泉大学の開講講座数	120講座/年(累計)	平成33年度
拠点エリア内への移住者数	100人(累計) (多世代向け50人、サ高住50人)	平成33年度
拠点エリア内のサテライトオフィスへの入居者数	10社(累計)	平成33年度

【想定される事業主体】

主要な事業	実施主体
(仮称) ミナミイズ温泉大学(生涯学習事業)	まちづくり会社
リノベーション地域再生事業 ○リノベーション事業、サテライトオフィス誘致事業 ○オフィス、アトリエ、住宅等賃貸事業	町、まちづくり会社の協働
交流拠点施設整備事業	建設は町、運営はまちづくり会社を想定
アクティブシニア向け住宅整備事業	まちづくり会社を想定

4. 今後の検討にあたって

今後は、考えられる以下の課題について、まず、町が行政としての考え方を整理し、それを協議会に投げかけていただきたい。その課題を協議会として検討するというプロセスを通して協議した成果を最終報告に盛り込んでいきたい。

町に取り組んでいただきたい当面の課題は次の通りである。

○共立湊病院跡地・杉並区健康学園跡地の利活用

跡地の利活用は、大学の拠点づくりにとって不可欠であり、この中間報告は両跡地が利活用できることを前提に議論を進めてきた。「ミナミイズ温泉大学」の設立は、南伊豆町民や杉並区民の健康づくりや生きがい活動を支援するものであるとともに、町はもとより賀茂圏域に暮らす人々にもメリットをもたらすものである。現在跡地を管理している 1 市 5 町の一部事務組合及び杉並区に本プロジェクトが有する意義・目的を早期に理解し協力していただけるよう全力を傾注していただきたい。

○官民の適切な役割分担

本プロジェクトの成否は、身の丈に合った、プロジェクトの予算規模であり、また、適切な官民役割分担にかかっていると言っても過言ではない。プロジェクトの初期投資と管理運営に必要と想定される経費を早期に試算して、協議会委員をはじめ多面的な意見を聞くことが大切である。

○医療・介護のケアシステムの充実

医療・介護の満足度は、町民はもとより移住者にとっても大きな関心事であるとともに、特に移住者にとっては将来の不安要素の筆頭にあげられる問題であり、町民や移住者のケアが必要になった時に、町として、医療・介護をどう提供していくのかは大きな課題である。現在の限られた医療機関、介護サービス、それを支える人材などの現状に鑑みると、町単独での取り組みには難しさも予想されることから、賀茂健康福祉センターを中心とした県、市町による「賀茂圏域保健・医療・福祉戦略会議」における賀茂圏域の実状を踏まえた広域のケアシステム構築を積極的に進めて頂きたい。あわせて、医師、看護師や介護等の従事者の確保等についても、国や県に支援を求めながら連携して進めることが必要である。

○津波対策

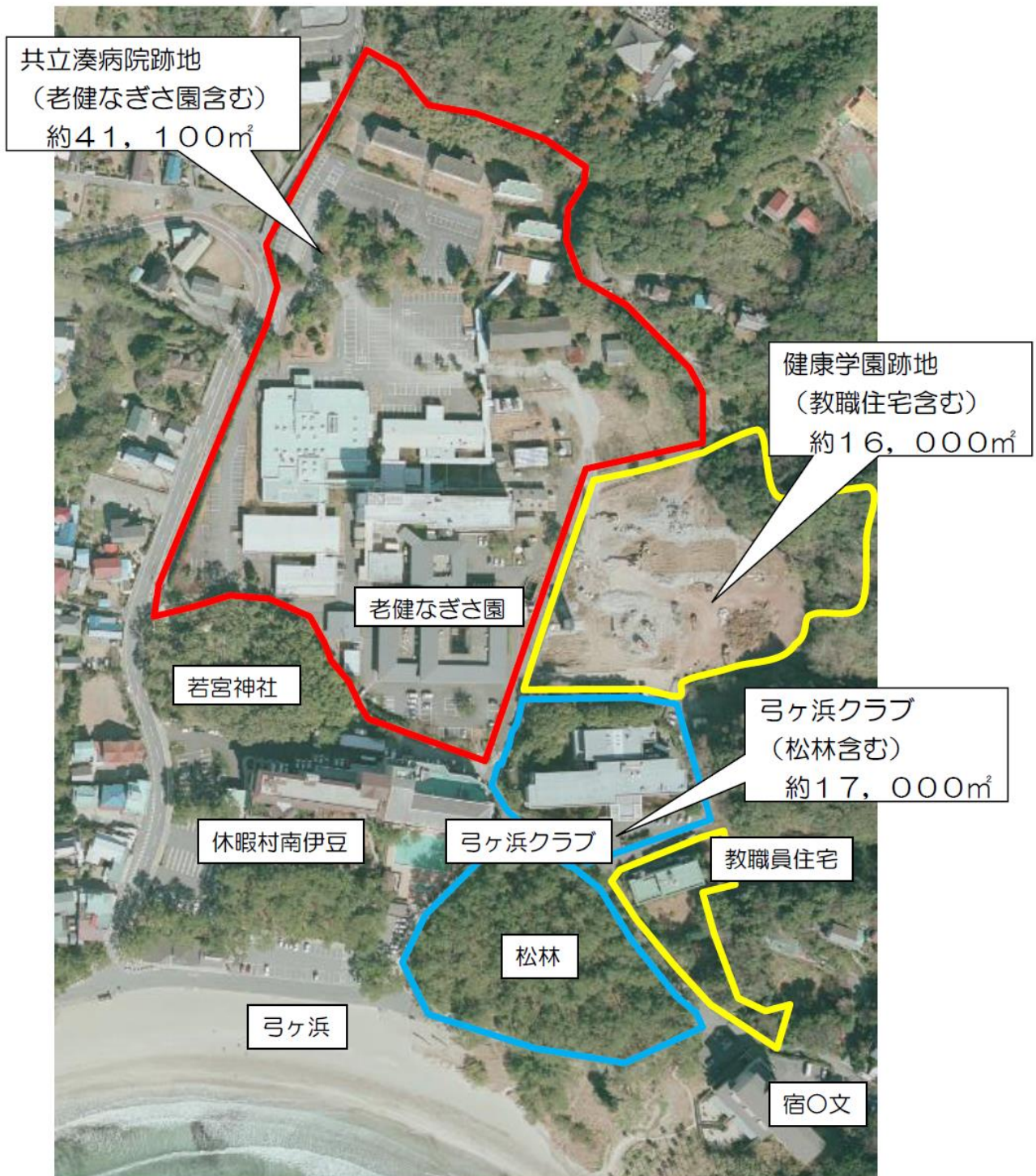
「生涯活躍のまち」拠点整備予定地である「共立湊病院跡地」は、静岡県第 4 次地震被害想定において浸水域となっている。予定地に隣接して、介護老人保健施設「なぎさ園」（一部事務組合設置）があることから、国、県及び一部事務組合とも連携しながら、利用者、特に災害弱者の避難について検討を行うこととし、なぎさ園の利用者、拠点施設の利用者を含む地域住民が、短時間で避難を行うことができる避難方法を確保しておく必要がある。

○町民の理解と協力

本プロジェクトを推進するにあたっては、課題が山積しており、これらのハードルを乗り越えていくことができる力は、町民の理解と協力である。そのためには、南伊豆町の職員が横断的に相互に協力し合い、一丸となって、様々な場面で町民と向き合い、本プロジェクトについての町民の理解と協力を得ることができるよう努めることが重要である。さらに、町議会にも、本プロジェクトが町の未来を左右する重要な取り組みであることをご理解いただき、甚大なるご協力をお願いし、期待するものである。

5. 拠点エリアの整備イメージ

〈現況〉

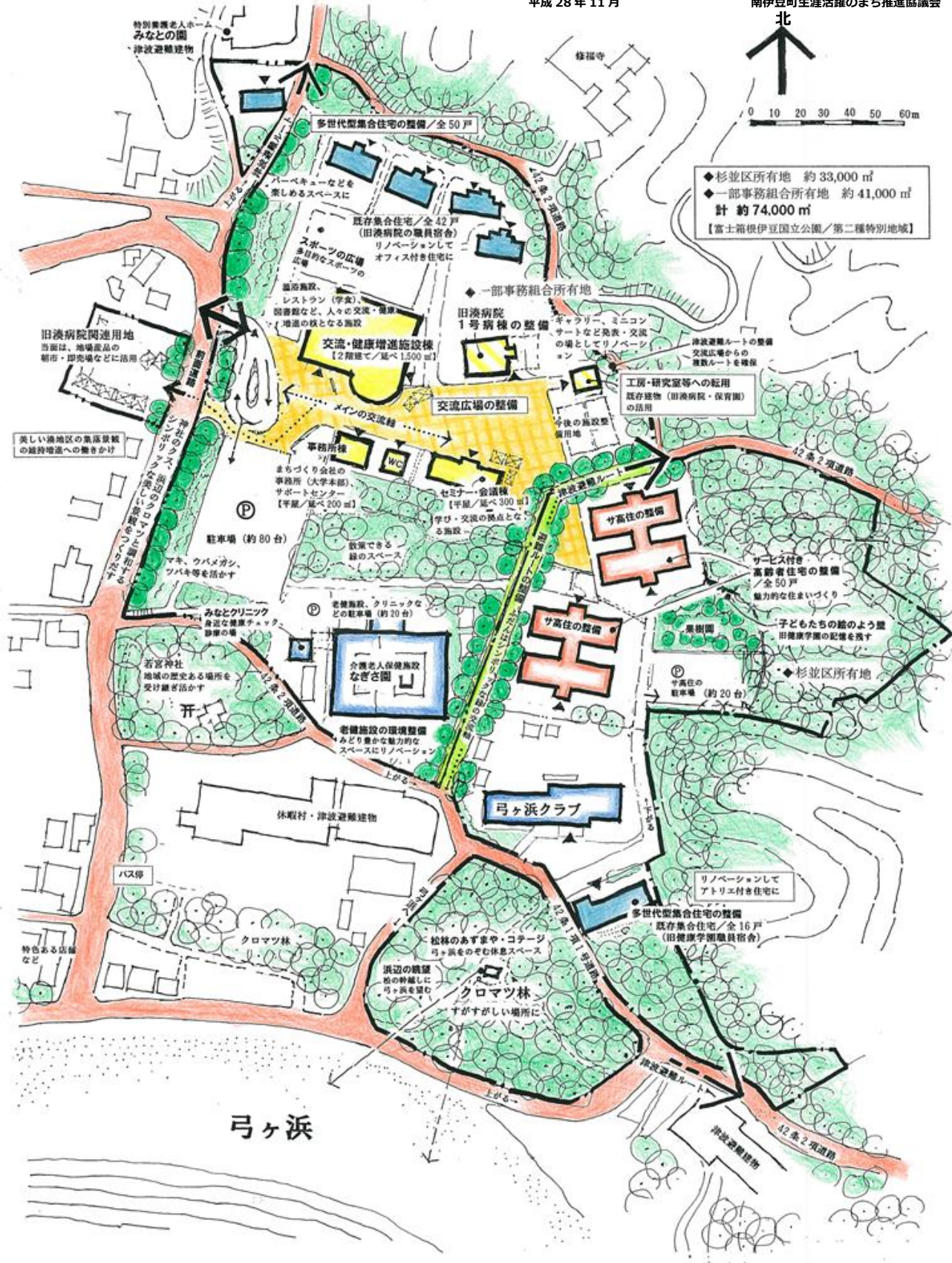


南伊豆町生涯活躍のまち 仮称「ミナミイズ温泉大学」

施設計画の基本的な考え方 / 中間まとめ

平成 28 年 11 月

南伊豆町生涯活躍のまち推進協議会



※杉並区健康学園跡地等の利活用については、今後、杉並区と協議・調整を行う。